

2014年カリフォルニア産ストロベリー市況



収穫面積の減少、高値傾向

2014年のカリフォルニア産ストロベリーは冬季に温暖な天候に恵まれた事から、例年より早く収穫が開始されています。青果市場向けの出荷は10年間で最も早いペースで推移しており、一部の地域では冷凍品等、加工品の生産が例年より2週間以上早く開始され、過去5年で最速のペースです。

作付面積は昨年の4万800エーカー（過去最高）から、1,800エーカー減少し、一昨年並みの3万9,000エーカーとなる模様です。これは昨年の不作により、農家の収入が減少した状況による意欲の低下が原因とみられます。

4月中旬に発表となった今期の加工用生鮮ストロベリーのフィールドプライスは\$0.42/ポンドとオープニングプライスとしては過去5年で最高値をつけました（昨年\$0.37~0.39/ポンド）。2013年産のカリフォルニア州の冷凍ストロベリー生産量は不作の影響により過去5年で最低の18万トン程度とみられ、現在では在庫もほぼ払拭しているとみられる事から、一部の加工業者では高値にも関わらず既に買い付けが進んでいるとの状況です。人件費の高騰、収穫面積の減少、需給バランスも相まって今期の冷凍ストロベリー価格の上昇は必至とみられます。

品種につきましては2009年の全作付面積に対して39%を頂点に、ここ数年減少傾向にあったアルビオン種の面積が今期は16%を切り、同品種の供給も今期が最後となる可能性が高いと考えられます。

弊社といたしましても今期はアルビオン種以外に他品種の取り扱いも開始していきたいと考えています。なお、カリフォルニア州全体で問題となっている水不足につきましても、来年のクロップに向けて問題になるとの情報もあります。引き続き現地状況につきまして、来月号にてご報告させていただきます。

カリフォルニア産ストロベリー品種別作付面積推移

